

直近の学術フォーラム・公開シンポジウム等の開催予定について

令和8年3月23日時点

	開催日時	開催形式(場所)	名称
1	3月28日(土) 13:00~16:00	オンライン開催	公開シンポジウム「福祉の価値とイノベーションの創発による福祉システムの共創~多様性と地域共生への展望~」
2	3月28日(土) 14:30~17:00	ハイブリッド (高崎健康福祉大学)	公開シンポジウム「気候変動を食い止める農業生産技術 -今、我々に何ができるか-」
3	4月4日(土) 13:30~17:00	ハイブリッド (日本学術会議講堂)	学術フォーラム「これからの研究インテグリティ・研究セキュリティー先端材料研究開発分野を起点に考える産官学それぞれのあり方」
4	4月11日(土) 9:00~17:45 4月12日(日) 9:00~12:00	宇都宮大学陽東キャンパス	公開シンポジウム「第72回構造工学シンポジウム」
5	4月12日(日) 13:30~16:30	ハイブリッド (日本学術会議講堂)	公開シンポジウム「四季の環境変化を生き抜く生物の知恵と時間の科学 ~体内時計と季節~」
6	4月18日(土) 15:00~16:30	朱鷺メッセ新潟県コンベンションセンター	公開シンポジウム「周術期等口腔機能管理の意義と課題」
7	4月23日(木) 9:00~12:00 14:00~17:00	東京国際フォーラム「ホールC」「ホールD」	共同主催国際会議市民公開講座「ペットと飼い主の健康 Thanks Buddy !」 ※資料等、後日掲載予定
8	4月24日(金) 9:00~11:00	東京国際フォーラム「ホールB5」	共同主催国際会議市民公開講座「ワンヘルスのいろいろなカタチ」 ※資料等、後日掲載予定

※諸般の事情により、内容等に変更が生じる可能性がありますので、学術フォーラム・公開シンポジウム等の参加前には日本学術会議ホームページを御確認ください。



福祉の価値と

イノベーションの創発による

福祉システムの共創

多様性と地域共生への展望

【開催趣旨】

人口減少・少子高齢化の進展に伴い、福祉・介護人材の不足とともに、社会的孤立・孤独やひきこもりなど、旧来の福祉システムでは対応困難な課題が増大している。

一方、情報通信技術、人工知能（AI）、人間拡張技術等のテクノロジーの発展は、人と人のつながり方を含め、私たちの生活や社会全体のあり様を変容させている。これらのテクノロジーの活用により、生活機能やコミュニケーションの障壁を軽減・除去し、多様な生活ニーズをもつ人々の生活の質やウェルビーイングを高めることが期待されている。

しかしながら、他方で先端的テクノロジーが、時として当事者を置き去りにし、新たな差別や排除を生み出すといった、多様性、包摂、共生といった「福祉の価値」との不整合が生じうる危険性も指摘されている。本シンポジウムでは、福祉の価値と、新たな視点や仕組みによって社会を変えるイノベーションの創発的関係をふまえ、多様な人々との地域での共生を図る福祉システム共創の可能性と課題について議論する。

13:00- 開会挨拶及び趣旨説明

和氣 純子

日本学術会議第一部会員／東京都立大学大学院人文科学研究科教授

第一部 報告

司会 木下 武徳

日本学術会議連携会員／立教大学コミュニティ福祉学部教授

13:10- 「当事者の声が生み出すイノベーション」

熊谷 晋一郎

日本学術会議第二部会員／東京大学先端科学技術研究センター当事者研究分野教授

13:30- 「ロボット・IoTを介した相互承認の場とシステムの共創」

志村 健一

東洋大学福祉社会デザイン学部長・福祉社会デザイン学部社会福祉学科教授・福祉社会開発研究センター長

13:50- 「ソーシャルワークにおけるジェンダー・センシティビティ」

横山 登志子

札幌学院大学人間科学部人間科学科教授

14:10- 「外国人介護労働者の受け入れと多文化共生」

大和 三重

日本学術会議連携会員／関西学院大学名誉教授

14:30- 「縦割り型福祉システムを超えて：制度横断的ガバナンスと共創によるイノベーション」

永田 祐

日本学術会議連携会員／同志社大学社会学部社会福祉学科教授

休憩(10分)

第二部 コメント・討論

15:00- コメント

山野 則子

日本学術会議連携会員／

大阪公立大学大学院現代システム科学研究科教授／

日本ソーシャルワーク教育学校連盟副会長

15:10- 討論

15:55- 閉会挨拶

金子 光一

日本学術会議連携会員／

東洋大学常務理事・福祉社会デザイン学部社会福祉学科教授・東洋大学のち総合研究機構副機構長／

日本社会福祉系学会連合会長

2026/3/28 土

13:00 - 16:00 参加費：無料

オンライン開催
要事前予約(QRコード)

お問合せ



cdws@toyo.jp



主催 日本学術会議社会学委員会、価値とイノベーションの創発による福祉システム検討分科会

共催 日本社会福祉系学会連合、東洋大学のち総合研究機構

後援 社会福祉法人全国社会福祉協議会、公益社団法人日本社会福祉士会、公益社団法人日本精神保健福祉士協会

公益社団法人日本医療ソーシャルワーカー協会、一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟

主催: 日本学術会議農学委員会農学分科会
共催: (一社)日本作物学会、(一社)園芸学会
後援: 日本農学アカデミー

近年、日本では気候変動に伴う激甚な気象災害が農業の持続可能性に深刻な影響を及ぼしている。政府は2050年の炭素中立を掲げ、農業分野にも緩和策の強化を求めているが、従来は適応策中心で緩和策は不十分であった。農業はメタンや亜酸化窒素など強力な温室効果ガスを広域的に排出する特性を有する。このような農業特有の状況を踏まえ、本シンポジウムは、生産農学の視点から緩和策に焦点を当て、食料安定供給と環境負荷低減を両立する技術への転換を促すことを目的とする。



<https://forms.gle/rLz4mjAK1DZAVha4A>

日時: 2026年3月28日(土) 14:30 ~ 17:00

場所: 高崎健康福祉大学(群馬県高崎市中大類町)

3号館101講義室&オンライン(一般参加歓迎)

対面・オンラインとも、参加申し込みは右上のQRコードから

日本学術会議公開シンポジウム 気候変動を食い止める農業生産技術 — 今、我々に何ができるか —

プログラム:

◇総合司会 彦坂 晶子(日本学術会議連携会員/千葉大学大学院園芸学研究院教授)

シンポジウムの開催にあたって(主催者代表挨拶)

土井 元章(日本学術会議第二部会員/京都大学名誉教授)

『農業生産の持続可能性の課題と気候変動』

本間 香貴(日本学術会議連携会員/東北大学大学院農学研究科教授)

『水田における窒素および炭素動態とその制御

—カバークロップや不耕起を利用したメタン排出量削減—』

浅木 直美(愛媛大学大学院農学研究科准教授)

『環境変化と土壌・根圏微生物相互作用』

竹下 典男(筑波大学生命環境系准教授)

『気候変動に伴う野菜生産の作型適応』

山崎 篤(高崎健康福祉大学農学部教授)

『農業生産におけるカーボンクレジット』

西田 智子(日本学術会議連携会員/(国研)農研機構理事)

シンポジウム総括 下野 裕之(日本学術会議連携会員/岩手大学農学部教授)

お問い合わせ: 2026nougaku.sympto@gmail.com



これからの 研究インテグリティ・ 研究セキュリティ



—先端材料研究開発分野を起点に考える産官学それぞれのあり方—

研究活動の国際化・オープン化が進む中、研究データの扱いや利益相反・責務相反など、研究者が直面するリスクは増大している。これを受け、政府では「研究インテグリティの確保に係る対応方針」（令和4年）や、令和7年度中に策定予定の「研究セキュリティと研究インテグリティの確保のための手順書」など、研究ガバナンス強化に向けた政策整備が急速に進められている。日本学術会議もまた、「研究活動のオープン化、国際化が進む中での科学者コミュニティの課題と対応」（令和5年）を公表し、共通課題の整理を行ってきた。

一方で、材料科学・材料工学はエネルギー、半導体、輸送、医療など多様な基幹産業の基盤として社会的・経済的に重要度が高く、研究インテグリティや研究セキュリティに対する要求も特に高い。国際競争が激化する中で、研究現場には分野特有の実務的課題が多く残されている。

こうした状況を踏まえ、先端材料研究開発分野における研究インテグリティの実施状況や研究者意識、現場の課題について、材料工学委員会・総合工学委員会合同将来展開分科会において集中的に議論・調査を行い、その成果を報告「先端材料研究開発分野における研究インテグリティ実施に伴う課題（案）」（以下「報告」）として取りまとめつつある。本「報告」は、行政・研究機関の制度設計・運用改善の参考となるとともに、研究者が研究インテグリティに向き合う契機を提供するものである。

今回の学術フォーラムは、この「報告」と連動し、材料分野に特有の論点を含め多角的に議論を深めることを目的とする。研究インテグリティの専門家、大学・研究機関で制度整備を担う実務家、行政、産業界、若手研究者など、多様な立場から意見を共有し、材料研究コミュニティとしてあるべき原則や体制を幅広く検討する場としたい。多様なステークホルダーの参加を促すため、ハイブリッド形式で開催し、その成果を今後の日本学術会議での議論につなげていく。

令和8年

4月4日(土)

13:30~17:00



会場

日本学術会議講堂

東京都港区六本木7-22-34

ハイブリッド開催

参加費無料

お申込み <https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0364.html>

申込締切 令和8年3月31日(火) 事前参加登録をお願いします。



主催 日本学術会議

後援

全国大学材料関係教室協議会、(一般社団法人) 軽金属学会、(一般社団法人) 資源・素材学会、(公益社団法人) 日本材料学会、(一般社団法人) 日本塑性加工学会、(公益社団法人) 日本金属学会、(公益社団法人) 日本鑄造工学会、(一般社団法人) 日本鉄鋼協会、(一般財団法人) 日本バイオマテリアル学会、(一般社団法人) 溶接学会、(公益社団法人) 高分子学会、(公益社団法人) 応用物理学会、(公益財団法人) 情報通信学会、(一般社団法人) 日本MRS、(公益社団法人) 日本化学会

問合せ

日本学術会議事務局企画課学術フォーラム担当 Tel 03-3403-6295



これからの**研究**インテグリティ・**研究**セキュリティ



コーディネーター

尾崎 由紀子 (日本学術会議第三部会員/大阪大学接合科学研究所招へい教授)
筑本 知子 (日本学術会議連携会員/大阪大学レーザー科学研究所附属マトリクス共創推進センターセンター長・教授)

総合司会

梅津 理恵 (日本学術会議連携会員/東北大学金属材料研究所教授)

スケジュール

13:30 ~ 13:45	趣旨説明
	尾崎 由紀子 (日本学術会議第三部会員/大阪大学接合科学研究所招へい教授)
13:45 ~ 14:10	講演「研究公正と研究インテグリティの関係を問い直す」
	中村 征樹 (日本学術会議第一部会員/大阪大学全学教育推進機構教授)
14:10 ~ 14:35	講演「国際共同研究が直面する課題：研究インテグリティ・研究セキュリティ」
	鎌田 武仁 (上智大学特任助教)
14:35 ~ 15:00	講演「研究セキュリティの確保に関する取組のための手順書」
	錦 泰司 (内閣府科学技術・イノベーション推進事務局参事官)
15:00 ~ 15:25	報告「研究者へのアンケート結果から見る先端材料開発現場での研究インテグリティ意識」
	岸村 顕広 (日本学術会議連携会員/九州大学大学院工学研究院応用化学部門・分子システム科学センター准教授/内閣府科学技術・イノベーション推進事務局上席科学技術政策フェロー)
15:25 ~ 15:35	休憩
15:35 ~ 16:55	パネルディスカッション
	課題：アカデミアおよび産業界における研究インテグリティ・研究セキュリティ
	モデレーター
	筑本 知子 (日本学術会議連携会員/大阪大学レーザー科学研究所附属マトリクス共創推進センターセンター長・教授)
	パネリスト
	鎌田 武仁 (上智大学特任助教)
	臼田 孝 (産業技術総合研究所 上級執行役員 研究者倫理統括担当)
	岸本 康夫 (日本学術会議第三部会員/ JFE スチール株式会社スチール研究所研究技監)
	佐々木 孝彦 (東北大学金属材料研究所所長)
	中村 征樹 (日本学術会議第一部会員/大阪大学全学教育推進機構教授)
	錦 泰司 (内閣府科学技術・イノベーション推進事務局参事官)
藤岡 沙都子 (日本学術会議連携会員/慶應義塾大学理工学部応用化学科准教授)	
16:55 ~ 17:00	総括
	岸本 康夫 (日本学術会議第三部会員/ JFE スチール株式会社スチール研究所研究技監)
17:00	閉会



主催 日本学術会議
共催 土木学会
日本建築学会

"Twin Bridge Noto" © Kyoto Prefectural Government et al., CC BY-NC-SA 4.0, modified

第 72 回 構造工学シンポジウム 記念講演会 構造工学の視点から考える地域防災

無料

2026年 4月 11日 (土) 15:00~17:45

宇都宮大学 陽東キャンパス 10号館 1階 アカデミアホール

開会挨拶

佐々木 葉 (早稲田大学)

米田 雅子 (防災学術連携体)

特別講演「能登半島地震・豪雨災害の教訓に基づく広域地域災害への備え」(予定)

竹内 徹 (東京科学大学名誉教授)

パネルディスカッション「地域防災に貢献する構造工学」

荒木 康弘 (国土技術政策総合研究所)

石井 大一郎 (宇都宮大学)

鋤田 泰子 (神戸大学)

藤倉 修一 (宇都宮大学)

第 72 回

構造工学シンポジウム

主催 日本学術会議

共催 公益社団法人土木学会

一般社団法人日本建築学会

本シンポジウムは、構造工学論文集 Vol.72A・B に掲載された論文等に関する発表や、構造工学分野における主要なテーマについて専門家の講演を行い、研究者や技術者の産官学を横断した学術技術交流の場となることを目的として開催します。

会 期 2026 年 4 月 11 日 (土)

4 月 12 日 (日)

会 場 宇都宮大学 陽東キャンパス

所在地：[栃木県宇都宮市陽東 7-1-2](#)

最寄駅：宇都宮ライトレール

宇都宮大学陽東キャンパス停留所

参加費 無 料

申込み 不 要

一般講演会

構造工学論文集 Vol.72A (土木部門)・B (建築部門) に掲載された論文・報告・総説について、著者による口頭発表 (発表 10 分と質疑 5 分) を行います。

日時

4 月 11 日 (土) 10:15~14:45

4 月 12 日 (日) 9:00~12:30

会場

8 号館 2 階 821~825 教室

10 号館 1 階アカデミアホール

プログラム

4 月 11 日 (土) pp.5~9

4 月 12 日 (日) pp.10~14

構造工学論文集 Vol.72A・B

シンポジウム開催までに J-STAGE にて無償公開されま
す。論文は次のリンクから閲覧できます。

[Vol.72A \(土木部門\)](#) / [Vol.72B \(建築部門\)](#)

記念講演会

「構造工学の視点から考える地域防災」

2024 年 1 月 1 日に能登半島で発生した M7.6 の地震では、珠洲市や輪島市をはじめとする地域において多数の木造建物が被害を受けるとともに、土砂崩れや道路の寸断などが発生し、住民生活に深刻な影響を及ぼしました。さらに、同年 7 月には豪雨災害も発生し、これらの複合的な災害の影響により、長年居住してきた住民の地域外への流出が継続しています。

国内各地域での大規模災害に対応した防災体制や復興計画を如何に構築するかは喫緊の課題です。構造工学は、防災・減災の基盤を成す分野であり、地域防災や強靱な街づくりの議論には欠かすことができません。

本シンポジウムの開催地である栃木県は、2011 年東北地方太平洋沖地震、2015 年豪雨による鬼怒川氾濫などの自然災害を経験しています。また、会場である宇都宮大学では、防災に関わる教育・研究・地域連携を総合的に推進する地域防災に力を入れています。

今回の記念講演会は「構造工学の視点から考える地域防災」をテーマに、特別講演では、能登半島地震・豪雨災害の教訓に基づく広域地域災害への備えに関して日本学術会議での議論を紹介します。その後のパネルディスカッションでは、2024 年能登半島地震等の事例を踏まえ、地域防災さらには広域の防災・減災対策を建築構造、土木構造を対象とした構造工学の視点から振り返り、地方だけでなく首都圏等における今後の防災・減災に関わる技術を議論していきます。

日時

4 月 11 日 (土) 15:00~17:45

会場

10 号館 1 階アカデミアホール

プログラム (各タイトルは現時点での予定です)

1. 開会挨拶 (15:00)

佐々木 葉 (日本学術会議土木工学・建築学委員会副委員長
/早稲田大学理工学術院教授/前 土木学会会長)

米田 雅子 (防災学術連携体代表理事/宇都宮大学理事/
前 日本学術会議土木工学・建築学委員会委員長)

司会：永野 正行 (東京理科大学)

2. 特別講演 (15:10)

能登半島地震・豪雨災害の教訓に基づく
広域地域災害への備え

竹内 徹 (日本学術会議土木工学・建築学委員会委員長/
東京科学大学名誉教授/前 日本建築学会会長)

司会：永野 正行 (東京理科大学)

3. パネルディスカッション (16:15)

地域防災に貢献する構造工学

「2024 年能登半島地震等における建物被害」

荒木 康弘 (国土技術政策総合研究所住宅研究部住宅生産研究室室長)

「大都市圏フリンジにおけるコミュニティと地域防災」

石井 大一郎 (宇都宮大学地域デザイン科学部コミュニティデザイン学科地域デザインセンター地域防災部門長)

「災害時の線状インフラの機能を再考する」

鎌田 泰子 (神戸大学大学院工学研究科市民工学専攻教授)

「橋は地域の生命線-地震後に“使える”構造をめざして」

藤倉 修一 (宇都宮大学地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科教授)

司会：山本 憲司 (東海大学)

田井 政行 (摂南大学)

交流会 (関連行事)

初日の記念講演会終了後に、一般講演会参加者や記念講演会講師を交えた懇親会が開催されます。

主催

一般社団法人日本建築学会 構造委員会
構造工学論文集編集小委員会

日時

4月11日(土) 18:00~19:30

会場

11号館1階アクティブラーニング教室

会費

5,000円(予定・現地支払い)

参加意向アンケート

交流会への参加をご検討されている方は、[アンケートフォーム](#)へのご回答をお願いします。なお、ご回答は当日の出欠を制約するものではありません。

土木学会ポスターセッション (関連行事)

土木学会による若手ポスターセッション「[次世代構造技術者の Work in Progress](#)」が開催されます。

主催

公益社団法人土木学会 構造工学委員会
若手構造技術者連絡小委員会

日時

4月11日(土) 11:45~15:00

4月12日(日) 10:45~12:30

会場

8号館1階エントランスラウンジ

CPD 実績登録申請

土木部門

本シンポジウムは土木学会 CPD の認定プログラムです。申請方法は土木学会構造工学論文集編集小委員会 [Web ページ](#)をご覧ください。

建築部門

本シンポジウムは建築 CPD 情報提制度の認定プログラムです。実績登録をご希望の方は、当日中にシンポジウム受付にて申請名簿にご記入ください。

1日目：一般講演会2単位、記念講演会3単位

2日目：一般講演会3単位

問合せ先

土木部門に関するお問合せ

■発表方法・論文集・プログラムについて

土木学会構造工学論文集編集小委員会幹事団

E-Mail：struct-eng@ml-jsce.jp

※開催期間中の緊急連絡も上記へお願いいたします。

■参加申込み・CPD について

土木学会事務局(岡崎)

E-Mail：okazaki@jsce.or.jp

建築部門・その他のお問合せ

日本建築学会事務局(加藤)

E-Mail：kato@aij.or.jp

構造工学論文集 Vol.73 論文投稿のご案内

本年も構造工学論文集 A (土木部門) 及び B (建築部門) への論文投稿を募集します。投稿に係る資格要件はありませんので、皆様のご投稿をお待ちしています。投稿要領は、構造工学論文集編集小委員会の Web ページにて公開します。

・[土木部門 Web ページ](#) (土木学会)

・[建築部門 Web ページ](#) (日本建築学会)

季節を感じる。生きるリズムを知る。

四季の環境変化を生き抜く 生物の知恵と時間の科学

～体内時計と季節～

日時・場所

令和8年4月12日（日）13:30～16:30

日本学術会議 1階講堂

東京都港区六本木7-22-34 東京メトロ 千代田線 乃木坂駅 5番出口スグ

参加費無料・ハイブリッド開催

Zoomでの視聴も可能です



次第

13:30 開会の挨拶

深田 吉孝（東京大学名誉教授／東京都医学総合研究所客員研究員）

13:35 植物はなぜ季節を知ることができるのか？ ～動けない生き物の生存戦略～

遠藤 求（奈良先端科学技術大学院大学教授）

14:00 虫たちの冬支度 ～小さな脳が操る休眠の巧みな仕組み～

志賀 向子（大阪大学大学院理学研究科教授）

14:25 動物たちのカレンダー ～ヒトの季節性疾患の謎に迫る～

吉村 崇（名古屋大学トランスフォーマティブ生命分子研究所拠点長／教授）

14:50-15:05 休憩

15:05 季節とライフステージ ～食と健康への活用～

安尾 しのぶ（九州大学大学院農学研究院教授）

15:30 哺乳類の冬眠の謎 ～過去・現在・未来～

山口 良文（北海道大学低温科学研究所教授）

16:05 総合討論・質疑応答

16:25 閉会の挨拶

坂田 省吾（新潟医療福祉大学
心理・福祉学部心理健康学科教授）

主催： 日本学術会議生物リズム分科会
共催： 日本時間生物学会、日本睡眠学会
連絡先： 公開シンポジウム「体内時計と季節」事務局
Biological.Rhythms.and.Seasons@gmail.com
参加登録サイト：<https://forms.gle/a9U98R2au7veRdSj7>

日本学術会議公開シンポジウム

「周術期等口腔機能管理の意義と課題」



主催：日本学術会議歯学委員会 病態系歯学分科会、基礎系歯学分科会、臨床系歯学分科会

共催：日本口腔科学会

後援：日本歯学系学会協議会、日本生命科学アカデミー

令和8年(2026年)

朱鷺メッセ 新潟県コンベンションセンター
(新潟県新潟市中央区万代島6番1号)

4月18日(土)

15:00~16:30

申し込み＝参加費無料・事前申込不要

問い合わせ先＝大阪大学大学院歯学研究科 村上伸也

E-mail: murakami.shinya.dent@osaka-u.ac.jp

2012年に、がんを始めとして多種の疾患の治療をする医師らと連携し、手術時のみならず、化学療法や放射線療法などの治療の前後に歯科医師が包括的な口腔管理を行い、治療の過程で生じる合併症や有害事象の予防および軽減を目的として、歯科の診療報酬に周術期等口腔機能管理が導入された。その際、多くの歯科医師にとっては不慣れなものであったため、適切に実施するために全国で多くの講習会が開催され、学部学生や研修歯科医教育においても新たな分野として組み込まれた。その後、10年以上が経過したが、期待どおりの効果が得られているのか、医科歯科連携の実施体制や歯科医師の教育に問題はないかなどの検証が必要であろう。今回のシンポジウムでは、厚生労働省、実施の最前線である病院歯科、学部学生や研修歯科医教育に携わる大学の立場から、現状と課題、そして将来の展望について議論する。

プログラム

挨拶： 村上 伸也 (日本学術会議第二部会員／大阪大学 名誉教授)

講演

座長： 中村 誠司 (日本学術会議連携会員／九州大学 名誉教授)

後藤 多津子 (日本学術会議連携会員／東京歯科大学 教授)

『医科歯科連携の推進と課題～周術期等口腔機能管理の観点から～』

小嶺 祐子 (厚生労働省 医政局歯科保健課 課長)

『病院歯科で実施する周術期等口腔機能管理の現状と課題』

栗田 浩 (信州大学医学部歯科口腔外科 教授)

『大学で教育する周術期等口腔機能管理教育の現状と課題』

西 裕美 (広島大学病院口腔総合診療科 診療講師)

総合討論

進行： 中村 誠司 (日本学術会議連携会員／九州大学 名誉教授)

前川 知樹 (日本学術会議連携会員／新潟大学 教授)

討論者： 小嶺 祐子

栗田 浩

西 裕美

挨拶： 森山 啓司 (日本学術会議第二部会員／東京科学大学 教授)

